# 安全安心な克雪体制づくり
# 取組事例集

令和3年3月

国土交通省 国土政策局 地方振興課

※この事例集は「令和２年度　雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査」に取り組まれた７地域の活動を紹介したものです。

# 掲載事例一覧

| NO | 活動地域 | 事例名 | ポイント |
|---|---|---|---|
| 1 | 北海道<br>小樽市 | **雪かきはスポーツだ！<br>スポーツ雪かきによる協働の推進** | ● 「スポーツ雪かき」というユニークなイベントを通して、大学生の力を借りながら、地域の子どもたちと高齢者を結びつけることで地域コミュニティの活性化と再構築を図る。<br>● 地元中学生や地域外の若者などの新しい担い手を発掘・確保し、自力での雪かきが困難な高齢者の支援拡充を目指す。 |
| 2 | 青森県<br>青森市 | **学生をはじめとした除雪ボランティアの育成<br>～新しい除雪ボランティア活動様式編～** | ● 歩道除雪の担い手として学生に注目。市ボランティアセンターの通常の仕組みを活かして、学生ボランティアによる除雪体制の確保を目指す。<br>● 地域団体（複数町会）が核となって、学校、大学、企業・団体（地元・県外）が連携する除雪ボランティアの実施体制の構築を図り、新型コロナウイルス感染予防に努めた新しい行動様式を実践。 |
| 3 | 岩手県<br>滝沢市 | **三者協働除雪による「三方良し」の実現** | ● 「滝沢市協働除雪ハンドブック」を作成し、「滝沢市モデル＝市・住民・除雪業者の三者協働除雪体制」を市内全域に普及促進。<br>● 昨年度までの協働除雪体制では、三者のうち住民・自治会においてよい効果がみられたが、懇談会を通じて除雪業者ともコミュニケーションを図り、三者すべてにとって効果が得られるような体制づくりを進める。 |
| 4 | 山形県<br>飯豊町 | **NPO法人が中心となった除雪ボランティア<br>組織づくりのための実態調査** | ● 地域の課題解決の担い手として設立されたNPOが、高齢者世帯等の実態調査を行った上で、モデル世帯に対して除雪支援活動を実施し、有償除雪ボランティアを基本とした一連のスキームを組み立てる。<br>● 自治会、民生児童委員、町、社会福祉協議会などの賛同が広がっており、除雪ボランティアの拡大や他地域への波及が期待できる。 |
| 5 | 群馬県<br>沼田市 | **持ちつ持たれつサポート事業<br>（除雪ネットワーク構築事業）** | ● 社会福祉協議会が主体となり、地区単位で、ボランティアによる要援護世帯の除雪支援の仕組みを構築。登録ボランティアが降雪10cm以上で見回りを行い、必要に応じて除雪作業を行う。<br>● 講演会や除雪講習会等を通して、消防団、神輿会のメンバー、高校生など、地元の担い手発掘に努め、ボランティア登録の増加を図る。 |
| 6 | 長野県<br>長野市 | **安全な屋根雪除雪の為のアンカー設置モデル事業** | ● 雪害救助員が安心して雪下ろし作業ができるように、支援が必要な世帯の住宅の情報を共有する「除雪住宅カルテ」を作成。屋根の特徴、雪止めやハシゴの位置、注意点などが細かく記録されている。<br>● 命綱アンカーの取付金具を自ら開発し、これを設置した「命綱アンカー設置モデル住宅」を整備。ここを拠点に周知・提案を図る。 |
| 7 | 島根県<br>飯南町 | **スノーヘルパーからレディースノーヘルパーへ<br>克雪そして自然災害から住民を守る地域<br>コミュニティーへ** | ● 男性による雪かきボランティア「赤名スノーヘルパー」と、見守り活動も意識した女性による雪かきボランティア「赤名レディースノーヘルパー」が連携し、きめ細やかな地域住民の支援体制を整備。<br>● 克雪体制づくりをきっかけに熟成されつつある地域コミュニティーの共助の機運を活かし、自然災害から住民を守る活動へと高める。 |

# 掲載事例の活動地域

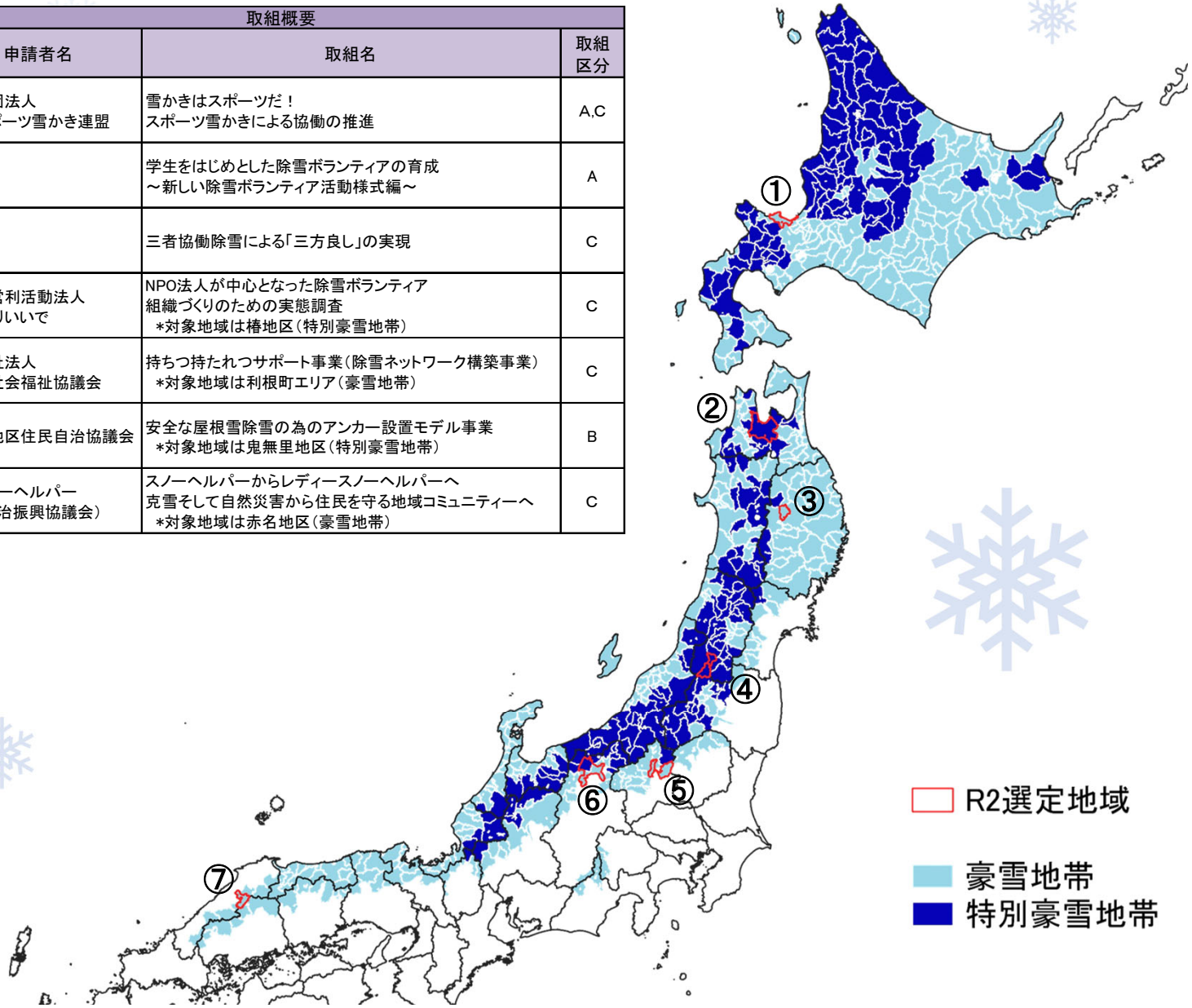
| 自治体概要 | | | | 取組概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| NO | 道府県 | 市町村 | 地域指定状況 | 申請者名 | 取組名 | 取組区分 |
| ① | 北海道 | 小樽市 | 豪雪 | 一般社団法人<br>日本スポーツ雪かき連盟 | 雪かきはスポーツだ！<br>スポーツ雪かきによる協働の推進 | A,C |
| ② | 青森県 | 青森市 | 特豪 | 青森市 | 学生をはじめとした除雪ボランティアの育成<br>～新しい除雪ボランティア活動様式編～ | A |
| ③ | 岩手県 | 滝沢市 | 豪雪 | 滝沢市 | 三者協働除雪による「三方良し」の実現 | C |
| ④ | 山形県 | 飯豊町 | 特別豪雪 | 特定非営利活動法人<br>まちづくりいいで | NPO法人が中心となった除雪ボランティア<br>組織づくりのための実態調査<br>＊対象地域は椿地区（特別豪雪地帯） | C |
| ⑤ | 群馬県 | 沼田市 | 一部豪雪 | 社会福祉法人<br>沼田市社会福祉協議会 | 持ちつ持たれつサポート事業（除雪ネットワーク構築事業）<br>＊対象地域は利根町エリア（豪雪地帯） | C |
| ⑥ | 長野県 | 長野市 | 一部特豪 | 鬼無里地区住民自治協議会 | 安全な屋根雪除雪の為のアンカー設置モデル事業<br>＊対象地域は鬼無里地区（特別豪雪地帯） | B |
| ⑦ | 島根県 | 飯南町 | 豪雪 | 赤名スノーヘルパー<br>（赤名自治振興協議会） | スノーヘルパーからレディースノーヘルパーへ<br>克雪そして自然災害から住民を守る地域コミュニティーへ<br>＊対象地域は赤名地区（豪雪地帯） | C |

※取組区分

A：広域的共助除排雪体制づくり

B：除雪作業の安全対策

C：その他（地域型共助除排雪体制づくり等）



北海道小樽市

# 事例1 スポーツ雪かきという発想で担い手確保とコミュニティ再構築

| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
|---|---|---|---|---|
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

**実施主体**

**一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟**
〔活動地域：北海道小樽市〕

**自治体**

北海道小樽市　人　口　：121,924人　（増減率：-7.6%）※1
世 帯 数　：55,466世帯（増減率：-3.9%）※1
高齢化率：37.1%　（増　減：+5.6%）
降 雪 量　：574.5cm　（冬期間累計）※2
※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

**きっかけ**

- 小樽市は急速な人口減少（年間約2,000人減）と少子高齢化（高齢化率40%超）により、雪かきの支援が必要な高齢者が増えている。
- 雪かきをスポーツとして演出する「スポーツ雪かき」が誕生。平成26年から小樽市において年一回「国際スポーツ雪かき選手権」を開催している。
- 雪かきでは近所同士の共助にも限界があり、若者を主体とした地域コミュニティの再構築が求められていることから、スポーツ雪かきを通して、除雪支援拡充を図ることとした。

**取組内容**

- 小樽商科大学、札幌大学の学生スタッフを組織化し、「国際スポーツ雪かき選手権実行委員会」の自主的な運営を行った。
- 小樽市内の全世帯・全中学校にスポーツ雪かきの周知活動を行った。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年は初めてリモートで国際スポーツ雪かき選手権を開催した。twitter、Instagramで開催情報を発信し、大会の様子をYouTubeライブで全国配信した。
- 雪かきの仕事量を計測する新しい方法の開発に取り組んだ。

**主な成果**

- コロナ禍のため、国際スポーツ雪かき選手権の延期やリモート開催への変更を余儀なくされたが、大会の様子を全国ライブ配信するなど、新たな挑戦を行うとともに、厳しい状況下を乗り切ることで地域の町会と実行委員会スタッフとの間で一体感が生まれ、信頼関係が構築された。
- 小樽市と小樽市社会福祉協議会の各チームが、国際スポーツ雪かき選手権に初参戦するなど、官民のつながりができつつある。
- 大学生スタッフを実践を通して育成し、主体的な運営体制ができつつある。

## ポイント

- 「スポーツ雪かき」というユニークなイベントを通して、大学生の力を借りながら、地域の子どもたちと高齢者を結びつけることで地域コミュニティの活性化と再構築を図る。
- 地元中学生や地域外の若者などの新しい担い手を発掘・確保し、自力での雪かきが困難な高齢者の支援拡充を目指す。

## ＜運営体制＞

プロジェクト推進チーム
- 大学生スタッフ組織 実行委員会の各種活動
- 合同会社PoRtaru スマホ講座
- 小樽市建設部 スポーツ雪かき普及の支援
- 日本スポーツ雪かき連盟 プロジェクトリーダー

周知に係る協力要請
- 小樽市総連町会 → 全世帯へ周知 → 小樽市内各町内
- 小樽市教育委員会 → 全中学校へ周知 → 小樽市内各中学校

計測機器の開発に係る協力要請
- 北海道科学大学 木村尚仁研究室
- 株式会社 エレクトロドリーム

国際雪かきスポーツ選手会 ライブ配信

市内全校に配布したチラシ

青森県青森市

# 事例2 地域団体との除雪ボランティア体制 新しい活動様式にも取り組む

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

**実施主体**

**青森市役所**
〔活動地域：青森県青森市〕

**自治体**

青森県青森市　人　口　：287,648人　（増減率：-4.0%）※1
世 帯 数　：118,234世帯　（増減率：-1.0%）※1
高齢化率：28.5%　（増　減：+4.8%）
降 雪 量　：580.2cm　（冬期間累計）※2
※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

**きっかけ**

- 快適な歩行者空間を確保するためには、地域住民による共助による除雪が必要不可欠となっている。しかし、高齢化の進展などにより、地域住民だけで活動を継続することが困難になってきている。
- 町会などの地域住民のみならず、地域内外から除雪ボランティアを受け入れる必要があり、除雪ボランティアの体制づくりを進めている。
- 新型コロナウィルス感染症の感染拡大の懸念があるため、ボランティア活動に支障が生じる可能性があり、新たな対策が必要となっている。

**取組内容**

- 青森市と市ボランティアセンターが連携し、「克雪シンポジウム2021」（R3.2.6）を開催したり、アプリを活用するなどして、除雪ボランティアの募集・普及活動を行った。
- 感染予防用品を各団体に支給するとともに、ボランティア募集、打合せ、研修会、除雪活動の各場面で感染予防対策に努めた。
- 自主的な除雪活動を行おうとする地域団体が、学校・企業・団体などと連携した除雪ボランティア体制を構築できるようマッチングや調整を行った。

**主な成果**

- 新型コロナウイルス感染症を発生させることなく、活動を終了できた。
- 学生等の広域からのボランティアの受け入れができる地域を増やすとともに、除雪ボランティアリーダーを育成することができた。
- 地域団体と学生等が連携した除雪ボランティア活動を行う地域を、昨年度からさらに1地域増やすことができた（地元高校による新規の活動）。
- 除雪ボランティアの拡大を目指したが、大雪であったものの登録者数の増加には至らず、さらなる募集やマッチングの強化に取り組んでいく。

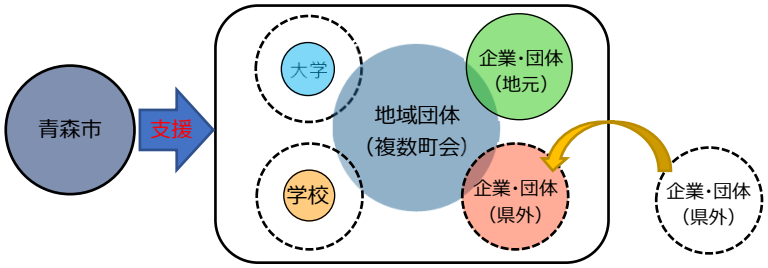
## ポイント

- 歩道除雪の担い手として学生に注目。市ボランティアセンターの通常の仕組みを活かして、学生ボランティアによる除雪体制の確保を目指す。
- 地域団体（複数町会）が核となって、学校、大学、企業・団体（地元・県外）が連携する除雪ボランティアの実施体制の構築を図り、新型コロナウイルス感染予防に努めた新しい行動様式を実践。

## ＜運営体制＞

| 名　称 | 役　割 |
|---|---|
| 地元町内会等 | 各団体との意見調整、活動計画策定、組織運営 |
| 協力法人・団体 | 除雪ボランティアの募集、除雪用具の提供 |
| 大学 | 大学内における学生ボランティアの募集 |
| 青森県 | 歩道除雪作業に併せた道路除雪の実施 |
| 青森市・青森市ボランティアセンター | 歩道除雪作業に併せた道路除雪の実施、除雪用具の貸与、除雪ボランティアの募集・育成 |

**除雪ボランティア実施体制イメージ**



克雪シンポジウム2021

青森山田高等学校の活動

青森公立大学の活動

岩手県滝沢市

# 事例3 市・住民・除雪業者による三方良しの協働除雪体制を普及・定着

| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
|---|---|---|---|---|
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

**実施主体**

**滝沢市役所**
〔活動地域：岩手県滝沢市〕

**自治体**

岩手県滝沢市　人　口　：55,463人　（増減率：+3.0%）※1
世 帯 数　：20,787世帯　（増減率：+7.1%）※1
高齢化率：21.5%　（増　減：+4.5%）
降 雪 量　：204.2cm　（冬期間累計）※2

※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

**きっかけ**

- 市の道路除雪では排雪はせず、道路脇の雪の片付けは住民が担っている。しかし高齢化によりこの作業が負担となってきている。
- 平成17年から地域課題解決のための除雪懇談会を開催し、自治会による三者協働除雪が始まった。現在は、上の山自治会・国分自治会・姥屋敷自治会・いずみ巣子ニュータウン自治会・あすみ野自治会等で取り組みを継続している。
- 市は地区ごとに除雪懇談会を開催しているが、やや形骸化しつつある。

**取組内容**

- 上の山自治会とあすみ野自治会の取り組みについて、自治会及び除雪業者にヒアリングを行い、現状や課題、知見などを把握・整理した。
- あすみ野自治会の「あすみ野除雪隊」に対して、排雪に使用する市所有の軽ダンプを自治会に常駐させたり、オレンジ色の防寒着を支給するなどして、活動のサポートを行った。
- あすみ野除雪隊と中学生ボランティアによるコラボ排雪デーを開催した。
- 「滝沢市協働除雪ハンドブック」を作成し、他地域への波及に取り組む。

**主な成果**

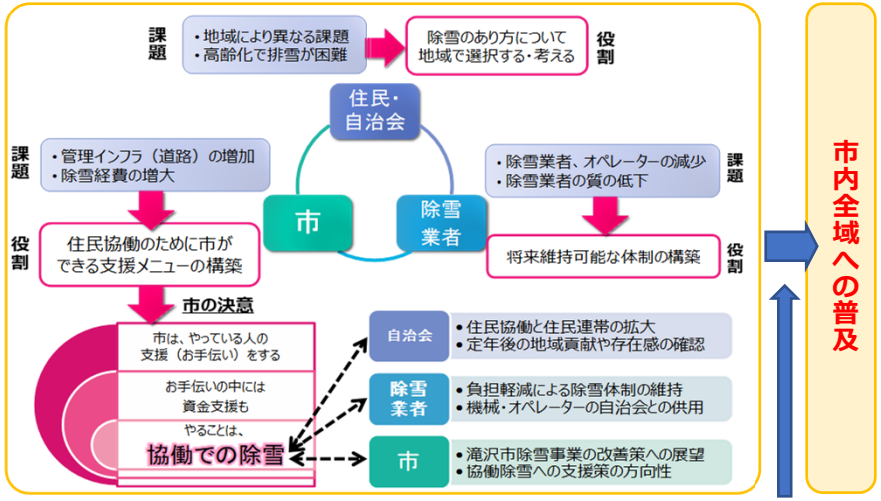
- コロナ禍のため、除雪懇談会は目標回数には達しなかったが、12自治会で開催することができ、協働除雪への関心やニーズを把握することができた。
- あすみの自治会へのステップアップ支援により、あすみ野除雪隊の隊員が増え、自分たちで除雪をするという意識が定着している。
- 市内活動自治会等の活動内容、きっかけや今後の課題等を記載した「滝沢市協働除雪ハンドブック」を作成した。今後はこのガイドブックを活用した市内全域への展開が可能となった。

## ポイント

- 「滝沢市協働除雪ハンドブック」を作成し、「滝沢市モデル＝市・住民・除雪業者の三者協働除雪体制」を市内全域に普及促進。
- 昨年度までの協働除雪体制では、三者のうち住民・自治会においてよい効果がみられたが、懇談会を通じて除雪業者ともコミュニケーションを図り、三者すべてにとって効果が得られるような体制づくりを進める。

## ＜運営体制＞

**「滝沢市モデル」「市」「住民」「除雪業者」による三者協働除雪**



あすみ野自治会での排雪活動

ハンドブック

山形県飯豊町

# 事例4 地域づくりを担うNPOが実態を調査した上で除雪支援を始動

| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
|---|---|---|---|---|
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

**実施主体**

**特定非営利法人まちづくりいいで**
〔活動地域：山形県飯豊町〕

**自治体**

山形県飯豊町　人　口　：7,304人　（増減率：-8.0%）※1
世 帯 数　：2,198世帯　（増減率：-1.7%）※1
高齢化率：34.7%　（増　減：+3.1%）
降 雪 量　：834.1cm　（冬期間累計）※2
※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

**きっかけ**

- 高齢化に伴い、個人宅の間口除雪も困難な状況になっている。行政が間口除雪や屋根の雪下ろし支援などに補助金を設けているが、担い手不足が原因で対応の遅れなどがあり苦慮している。
- 町全体に地域の存続に関する不安があり、高齢者は不便な生活を余儀なくされ、地域活力の低下へとつながっている。
- 令和2年1月に地域づくりを担うNPO法人まちづくりいいでが設立された。設立趣旨の一つとして、高齢者世帯等の除雪支援を掲げている。

**取組内容**

- 自治会長と一緒に、地区内350世帯ある除雪支援が必要な世帯の構成、近親者の所在、除雪の状況、要望等について実態調査を行い、飯豊町椿の除雪に係る実態を一覧表にまとめた。
- 除雪支援のための基準（除雪範囲、除雪方法、除雪費用、依頼の受付方法、ボランティアとの連絡調整、NPOの役割）を作成した。
- 高齢者世帯から5世帯をモデルとして選定。除雪を行うボランティア委員を13名を確保して、モデル世帯の除雪作業を実施した。

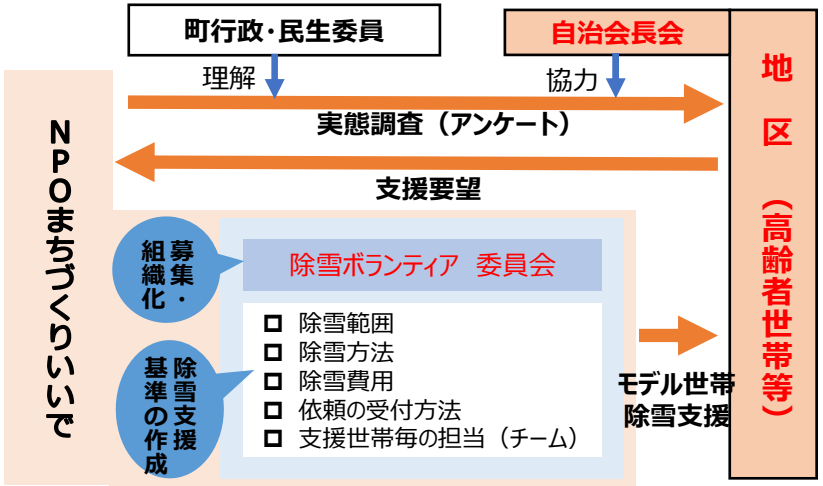
**主な成果**

- 実態調査を行うことにより、地域の除雪状況（350世帯のうち40世帯が除雪支援希望）を把握することができた。
- 調査結果を自治会長と地域内の民生児童委員とで共有することにより、賛同者や協力者が増え、隣の地域への取組が波及がみられた。
- ボランティア委員として予想を超える13名が名乗りをあげてくれた。
- NPO法人という組織の活動として、住民が支えあって高齢者世帯等の除雪支援活動に取り組むことに対し、多くの住民から賛同を得た。

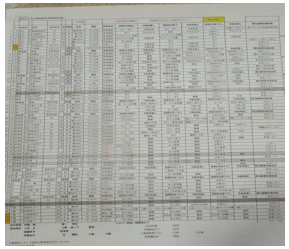
## ポイント

- 地域の課題解決の担い手として設立されたNPOが、高齢者世帯等の実態調査を行った上で、モデル世帯に対して除雪支援活動を実施し、有償除雪ボランティアを基本とした一連のスキームを組み立てる。
- 自治会、民生児童委員、町、社会福祉協議会などの賛同が広がっており、除雪ボランティアの拡大や他地域への波及が期待できる。

## ＜運営体制＞



ボランティア委員による除雪活動



実態調査に基づく世帯リスト

群馬県沼田市

# 事例5 地区単位で地元ボランティアによる要援護世帯の除雪支援を強化

| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
|---|---|---|---|---|
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

## 実施主体

**沼田市社会福祉協議会**
〔活動地域：群馬県沼田市利根町エリア〕

## 自治体

群馬県沼田市（利根町エリア）
人　口　：3,887人　（増減率：-10.4%）※1
世 帯 数　：1,498世帯　（増減率：　-4.2%）※1
高齢化率：35.5%　（増　減：　+2.8%）
降 雪 量　：345.0cm　（冬期間累計）※2

※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

## きっかけ

- 沼田市利根町エリアは、特別豪雪地帯に指定されている片品村に隣接し、多いときは一晩に30～50cmの積雪がある。
- 高齢化率の上昇が続いており、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯など見守りや支援が必要な要援護世帯も200世帯以上となり、特に冬季の除雪は非常に困難となっている。
- 現在、ボランティアによる除雪支援活動を行っているが、ボランティアの居住区もばらばらであり、全地区での対応はできていない。

## 取組内容

- 講演会「除雪でつなぐ地域の防災力と住民力」（R2.11.26）と除雪講習会「安全な除雪活動に向けて」（R3.1.24）を開催した。
- 除雪ボランティア登録者にカチ割りスコップと活動用ジャンパーを支給した。
- 多くの地域住民に「除雪活動」を知ってもらうため、“ロゴ”を作成し、チラシや通知、配布したジャンパーやスコップに活用した。
- 10cm以上の降雪時に除雪ボランティアによる支援活動を実施し、対象者25名に対して、3日間、合計51回の見回り及び除雪活動を行った。

## 主な成果

- 講演会及び除雪講習会に、消防団をはじめ地元の神輿会のメンバー、高校生など幅広い年齢層からの出席があり、「多くの住民で取り組む体制」という目標に向けた気運が高まった。
- 民生委員や児童委員、沼田市在宅介護支援センターの協力を得て、除雪対象者の聞き取り訪問を実施し、実態を把握することができた。
- 令和3年2月末時点で、23名の除雪ボランティア登録があった。
- 活動資機材（スコップ、スノーダンプ、ジャンパー）が整備された。

## ポイント

- 社会福祉協議会が主体となり、地区単位で、ボランティアによる要援護世帯の除雪支援の仕組みを構築。登録ボランティアが降雪10cm以上で見回りを行い、必要に応じて除雪作業を行う。
- 講演会や除雪講習会等を通して、消防団、神輿会のメンバー、高校生など、地元の担い手発掘に努め、ボランティア登録の増加を図る。

## ＜運営体制＞

**榛東村、片品村社会福祉協議会**
- 除雪講習会の実施、取組への助言

**沼田市社会福祉協議会利根支所**

除雪支援が必要な住民の把握
ボランティアの募集と調整
資機材等の調達
ボランティア活動保険の加入手続き
各種講習会等の開催と情報提供
除雪対策会議の開催

↓↑ 相互協力

**沼田市利根支所**
- 住民全体の活動を展開するうえで、交通・福祉・防災・教育など各担当と連絡調整を行う。

→ ← 情報共有

**登録ボランティア**
- 住民からの依頼により、自宅敷地内及び主要道までの除雪。
- 10cm以上の積雪で、要援護者を対象に見回りを実施。必要に応じて除雪作業を行う。

除雪作業の実施 ↓

**要援護世帯**
- 降雪時に必要に応じて、ボランティアの派遣を依頼。

情報収集 ↑

講演会

除雪講習会

登録ボランティアの活動

長野県長野市

# 事例6 除雪住宅カルテを製作し命綱アンカー設置の重要性を周知

| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
|---|---|---|---|---|
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

**実施主体**

**鬼無里地区住民自治協議会**
〔活動地域： 長野県長野市鬼無里地区〕

**自治体**

長野県長野市（鬼無里地区）
人　口　：1,393人　（増減率：-18.1%）※1
世 帯 数　：645世帯　（増減率：-10.2%）※1
高齢化率：56.7%　（増　減：+5.4%）
降 雪 量　：756.6 cm（冬期間累計）※2

※1 平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2 最寄りの観測所のH22～31平均値

**きっかけ**

- 鬼無里地区は、平成17年の長野市への合併以降、人口の流出が加速し、高齢化率は50%を超えるため、自力での除雪作業だけでなく、共助の作業も限界になってきており、作業中の事故も増加している。
- 平成28年から「雪かき道場」を開催し、地区外からの除雪ボランティアの育成や雪害救助員の安全対策に取り組んできた。
- 屋根雪の除雪作業の安全対策に取り組む中で、命綱をつなぐためのアンカーの設置が急務となっている。

**取組内容**

- 雪が積もる前に、雪害救助員を派遣する高齢者世帯等の住宅を現地調査し、アンカーの有無、雪止めに関する情報、屋根及び住宅まわりの平面図などを記載した「除雪住宅カルテ」を作成した。
- 雪害救助員を対象に、安全帯と命綱の重要性を伝えるための除雪安全講習会（R2.10.25）を開催した。
- 命綱アンカーの取付金具を開発するとともに、作成した住宅カルテを参考に、命綱アンカーの優先順位を検証し、地区内の住宅1軒に設置した。

**主な成果**

- 27軒の除雪住宅カルテが完成したことで、雪害救助員による除雪作業の安全性が格段に高まり、アンカー設置に対する住民の理解が進んだ。
- 実際に、除雪作業が危険だと感じていた住宅にアンカーを設置したことにより、雪下ろし作業を安全に行えるようになった。また、そこが「命綱アンカー設置モデル住宅」となり、アンカーの設置を提案しやすくなった。
- 除雪安全講習会には戸隠地区の雪害救助員にも参加を呼びかけ、鬼無里地区の取組を他地域へ広げていく可能性が生まれた。

## ポイント

- 雪害救助員が安心して雪下ろし作業ができるように、支援が必要な世帯の住宅の情報を共有する「除雪住宅カルテ」を作成。屋根の特徴、雪止めやハシゴの位置、注意点などが細かく記録されている。
- 命綱アンカーの取付金具を自ら開発し、これを設置した「命綱アンカー設置モデル住宅」を整備。ここを拠点に周知・提案を図る。

## ＜運営体制＞

運営主体：鬼無里地区住民自治協議会
担当：雪かき道場実行委員会
（ワークショップ、講習会等の企画運営）

安全対策の見直し
普及啓発の計画立案
運営会議の開催

・安全マニュアルの点検
・安全講習会の開催
（アンカー設置WS）
・除雪住宅カルテの作成

【支援協力】
長野市役所
鬼無里支所
市社会福祉協議会

除雪困難世帯

鬼無里地区雪害救助員
（除雪担い手）
民生委員
（除雪困難世帯の除雪依頼）

除雪安全講習会

命綱アンカー設置モデル住宅　命綱アンカー取付金具

島根県飯南町

# 事例7 男女2つのスノーヘルパーが活躍 克雪から年間を通した防災活動へ

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 降雪状況 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 |
| 除雪場所 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 |
| 除雪の役割 | 日常的な除排雪 | | 日常を補完する除排雪 | |
| 担い手 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 |
| 活動内容 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム |
| | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織づくり |

## 実施主体

**赤名自治振興協議会**
〔活動地域：島根県飯南町赤名地区〕

## 自治体

島根県飯南町（赤名地区）
人　口　：2,766人　（増減率：-10.0%）※1
世 帯 数：1,030世帯　（増減率：　-6.5%）※1
高齢化率：40.6%　（増　減：　+4.4%）
降 雪 量：443.7cm　（冬期間累計）※2

※1　平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値−H22の値）÷H22の値
※2　最寄りの観測所のH22～31平均値

## きっかけ

- 高齢化により自らの力で除雪ができない世帯が増加。降雪による事故も発生しており、安全対策、地域での除雪体制の整備が課題となっている。
- 平成29年度は地域で雪かきボランティア「赤名スノーヘルパー」を組織し、高齢者世帯等の玄関周りを中心に除雪を実施した。
- 令和元年度には見守り活動も兼ねた女性による雪かきボランティア「赤名レディースノーヘルパー」を結成。これら2つのチームの連携により、克雪体制の整備が進みつつある。

## 取組内容

- スノーヘルパーによる雪かき活動を2回、レディースノーヘルパーによる訪問活動を２回実施し、雪かきボランティアを通じた助け合いを実践した。
- 積雪時の安心安全を守る体制を強化するため、顔の見える関係を中心に、両チームの会員増加を積極的に呼びかけた。
- 豪雨や地震災害を含めた地元防災士による研修を開催し、克雪から通年を通した地域の安心安全を守る活動へと拡充を図った。
- レディースノーヘルパー訪問時に、防災や健康づくりについて啓発を行った。

## 主な成果

- スノーヘルパーの会員が29名から39名へ、レディースノーヘルパーの会員が22名から36名へと両チームともに大幅な増員となった。
- 地域での雪かきボランティアの認識も深まり、除雪を必要としている世帯をボランティアが自主的に訪問したり、ボランティアを受ける側も玄関へ出て声をかけたりするなど、双方向性のある除雪活動が行われるようになった。
- 雪かき、克雪をきっかけに、地域防災へと視野を広げた活動に着手し、自然災害から住民を守るコミュニティづくりという方向性が打ち出された。

## ポイント

- 男性による雪かきボランティア「赤名スノーヘルパー」と、見守り活動も意識した女性による雪かきボランティア「赤名レディースノーヘルパー」が連携し、きめ細やかな地域住民の支援体制を整備。
- 克雪体制づくりをきっかけに熟成されつつある地域コミュニティーの共助の機運を活かし、自然災害から住民を守る活動へと高める。

## ＜運営体制＞

**赤名自治振興協議会**

- 飯南町社会福祉協議会　ボランティア活動についての協力
- 島根県中山間地域研究センター　情報収集と助言協力
- 飯南町地域振興課　組織、地域づくり支援

より安心して暮らせる地域づくりを進める

H29結成 **赤名スノーヘルパー**（男性）

雪かき作業（重い作業）

雪かき作業（軽い作業）訪問見守り

協力して活動

R1結成 **赤名レディースノーヘルパー**（女性）

**克雪体制づくりから自然災害から住民を守る活動へと展開**

赤名スノーヘルパー

赤名レディースノーヘルパー

# 各地区の基礎情報

| NO | 事例名 | 実施主体 | 実施地域 | 地方 | | | | | | | 人口規模(*1) | | | | | 地域・活動分類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 活動開始年 | 連絡先（電話番号） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | 降雪状況 | | | | 除雪場所 | | | | 除雪の役割 | | 担い手 | | | | 活動内容 | | | | | | | |
| | | | | 北海道 | 東北 | 関東 | 北陸 | 中部 | 近畿 | 中国 | 1万人未満 | 1～3万人 | 3～10万人 | 10～30万人 | 30万人以上 | 必ず大雪 | ほぼ大雪 | たまに大雪 | まれに大雪 | 歩道 | 間口 | 住宅周り | 屋根 | 日常的な除排雪 | 日常を補完する除排雪 | 地区住民 | 学生・企業 | 周辺地域 | 広域 | 共助除雪 | 安全講習 | 会議・会合 | シンポジウム | 資器材整備 | 調査 | 人材確保 | 組織作り | | |
| 事例① | 雪かきはスポーツだ！<br>スポーツ雪かきによる協働の推進 | 一般社団法人<br>日本スポーツ雪かき連盟 | 北海道<br>小樽市 | ○ | | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | R2 | 一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟<br>0134-33-7155 |
| 事例② | 学生をはじめとした除雪ボランティアの育成<br>～新しい除雪ボランティア活動様式編～ | 青森市 | 青森県<br>青森市 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | R1 | 青森市<br>017-752-8584 |
| 事例③ | 三者協働除雪による「三方良し」の実現 | 滝沢市 | 岩手県<br>滝沢市 | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | H30 | 滝沢市<br>019-656-6549 |
| 事例④ | NPO法人が中心となった除雪ボランティア組織づくりのための実態調査 | 特定非営利活動法人<br>まちづくりいいで | 山形県<br>飯豊町 | | ○ | | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | R2 | NPO法人まちづくりいいで<br>0238-87-9950 |
| 事例⑤ | 持ちつ持たれつサポート事業<br>（除雪ネットワーク構築事業） | 社会福祉法人<br>沼田市社会福祉協議会 | 群馬県<br>沼田市 | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | R2 | 社会福祉法人沼田市社会福祉協議会<br>0278-56-4603 |
| 事例⑥ | 安全な屋根雪除雪の為のアンカー設置モデル事業 | 鬼無里地区住民自治協議会 | 長野県<br>長野市 | | | | | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | H28 | 鬼無里地区住民自治協議会<br>026-256-2213 |
| 事例⑦ | スノーヘルパーから<br>レディースノーヘルパーへ<br>克雪そして自然災害から住民を守る地域コミュニティーへ | 赤名スノーヘルパー<br>（赤名自治振興協議会） | 島根県<br>飯南町 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | H29 | 赤名スノーヘルパー事務局<br>090-7548-6080 |

*1 市町村合併前の旧市町村単位の人口規模を表す。